

「リバーウォークみんなで歩こう豊川」
に向けたマップづくり

平成21年2月

豊川リバーウォーク準備委員会

1. 事業の目的

私たちは、とよがわ流域大学・流域圏講座で学んだ、川の歴史、ダムによる治水、水質低下、生態系への影響、上流地域、下流地域への影響などを知ったことにより、身近な人に伝え、豊川の恩恵を流域全体が理解できるように活動する大切さをあらためて認識した。

そして豊川沿いの道を歩くことで、河川・堤防などに対する問題意識を持つようになり、さらに利水、用水施設を見学することによって、河川、用水の価値や恩恵について理解すること。また川を身近に観ることにより、自然への関心と観察力を養い、様々な事を発見し、多くの人との交流を交えながら、河川の美化、森林の保全活動の必要性を理解することが重要であると考えた。

そこで私たちは、設楽町の段戸山水源から三河湾の河口までを自らの足で歩き、豊川の自然を肌で感じ、地元住民との触れ合いや環境保全活動の実践、地域資源の発見など豊川の恩恵を体感できるリバーウォークを推奨することとし、そのためのマップづくりを行い、広く配布することとした。

2. 事業の概要

2007 年度に実施した、とよがわ流域アンケート調査グループのメンバーを中心に、新たに「豊川リバーウォーク準備委員会」を組織し、代表 1 名・副代表 2 名・書記 1 名・会計 1 名の計 5 名を選出し、メンバー全 12 名で活動を開始した。

マップづくりにあたっては、豊川の水の流れ、河原、集落、神社仏閣などの風景や見どころを案内するとともに、道路交通の状況を調査し、安全を最優先に散策できるリバーウォークコースとなるよう心がけた。

また、駐車場や公共交通機関を調査するとともに、コンビニエンスストア、トイレ、食事・休憩処、病院など快適な散策に必要な施設も調査した。

さらに現地調査とあわせて、上流域では山林と水源の役割を学び、下流域では河川からの利水施設、水循環、防災などを学ぶとともに、地域おこしや、ゴミ拾いなどの美化活動、水質調査などを行っている市民団体との交流を働きかけ、その様子もマップの中で紹介することとした。

この結果をもとに、概ね 4 時間程度で散策ができる 7 つのウォーキングコースと、1 つのトレッキングコースを設定した豊川リバーウォーク・マップを 1,000 部作成し、東三河市町村はじめ流域市民団体や図書館、学校などに配布した。

3. 具体的な実施結果

(1) 現地調査

●第1回現地調査

日 時：2008年9月6日（土）8時～17時（桜淵公園集合）

調査地点：豊川上流域：段戸山源流

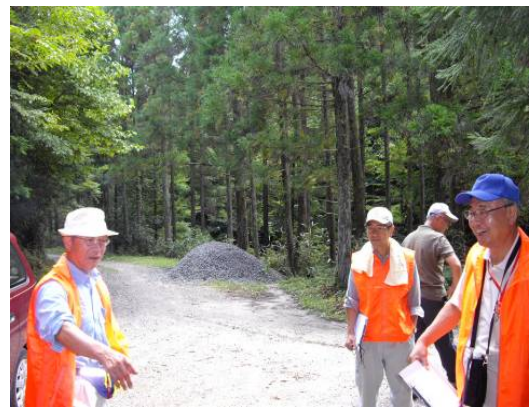
コメント：2台の車に分乗し段戸山頂上からふもとまで、距離や時間を計りながら、下山した。段戸山（鷹ノ巣山）は標高1152mあり近くに原生林がある。途中の路には雨水で土が流されないようにアスファルトでかまぼこ型になったところがあり、アスカーブと書かれた標識が目についた。



段戸山（鷹ノ巣山）登山口



段戸山（鷹ノ巣山）頂上



メンバーたちと

●第2回現地調査

日 時：2008年9月21日（日）8時～17時30分（桜淵公園集合）

調査地点：豊川上流域：設楽町方面～牛渕橋

コメント：桜淵公園から3台の車に分乗し「コミュニティプラザしたら」に到着。地元の方からお話を伺う。酒蔵の専務さんが特区指定で、法人の農業参入が可能になり10ヘクタールの農地で稲作を実践している様子や、試験的

にハウス栽培している野菜を、施設に寄付したり、仕事を作って斡旋し地域に還元している様子が分かり心強かった。ここで地元の産物での果実酒作りの話もされた。また地域の女性指導者から民話の読み聞かせをしている市民グループの紹介話も興味深く聞いた。

その後再び車で清流公園まで走り、自然散策に繰り出した。トンネルを6箇所も通り、鮎滝では昔ながらの笠網作りを見学した。



「コミュニティプラザしたら」での話し合い



旧田口線第6トンネル



笠網作り工房

●第3回現地調査

日時：2008年10月18日（土）8時～14時

調査地点：豊川下流域：江島橋～前芝

コメント：2台の車に分乗し江島橋から、河口前芝まで距離や時間を計りながら、途中途中で歩いた。牛川の渡しでは、舟に乗せてもらい船頭さんの話も聞いた。「渡し船が市道として無料で運行されていること」、「高校生などの通学のほか、観光資源としての価値があること」など理解した。上流域とは違い川幅も広く、河川敷にスポーツ施設があったり、畑も綺麗に作られていた。



三上橋下の駐車場で行程相談中



牛川の渡しに行く小路



牛川の渡しの船上で船頭さんと



放水路管理所から下条橋を望む

●第4回現地調査

日 時：2008年10月25日（土）8時～16時30分

調査地点：豊川下流域：牛渕橋～前芝

コメント：2台の車に分乗し前芝燈明台まで距離や時間を計り調査。

自然環境保全に力を注いでいる鳥原地区の NPO との交流が出来、そして地域住民と小学生が、力をあわせて作ったビオトープも見学できた。



鳥原地区 NPO メンバーとビオトープ風景

豊川に沿って下ると桜淵公園が両側にある。左岸の桜淵公園を出発し新城橋にいたる。新城橋の下をくぐり、豊川に沿った河畔林を見ながら、新城清掃センター横の道路を通過し、国道 301 号に出る。南西に直進し、一鍬田畠中交差点に到着する。ここを右折し、白いアーチ型の野田城大橋を見ることが出来る。この後、海倉橋を渡ると、(独) 水資源機構の事務所がある。コースも三上橋までは、右岸コース、左岸コースとそれぞれ見所が多い。

前芝地区では、みなと塾の人たちとも交流でき、今、昔、の生活状況の違いの話しや、海苔とアサリで活気があった時代を懐かしんだ。



前芝神社前で地元の方と交流

●第 5 回現地調査

日 時：2008 年 11 月 15 日（土）8 時～15 時 30 分

調査地点：豊川下流域：吉田神社から豊橋総合スポーツ公園まで

コメント：車と徒歩で距離や時間を計りながら、吉田大橋を出発した。

吉田神社は三河伝統の手筒花火発祥の地で碑がある。

500m 離れた湊町神明社には松生芭蕉の句碑もある。



豊川かわっこ駐車場



手筒花火発祥の地碑

とよばしから 600m さきの、豊川かわっこには豊川の生き物の展示資料もあり、休憩場所としての設備も整っていて便利だった。

豊川橋より河口寄りの左岸は六条潟と呼ばれ、広大な干潟の浅海域であり、しじみ、アサリ、また夏場はカニ類を見ることが出来る。水辺の鳥の生息地や引き潮の時には渡り鳥の休息地にもなっている。ここはかつては愛知県の海苔養殖発祥の漁場としても知られていた。

豊橋総合スポーツ公園はアリーナや体育館などの大型施設もあり駐車場など休憩設備も完備している。



六条潟など観察



(2) 定例会議

回	日時	場所	内容
1	2008. 8. 23 (土) 9 時～11 時	新城 まちなみ	県に提出した資料や今後の活動記録や帳票についての説明、活動資料及び、用具の相談など。
2	2008. 9. 13 (土) 8 時～12 時	愛知大学	経過報告と県委託事業契約書原本回覧。県への報告用書類の確認、議事録、会計簿、各個人経費記録票、行動記録票への記録確認、グループ分けについての話し合いなど。
3	2008. 9. 25 (土) 9 時～12 時	愛知大学	9 月 6 日・21 日の上流域調査結果の整理集約。歩けるコースの確認、距離や時間の検討。今後の課題の提起など。
4	2008. 10. 8 (水) 9 時～11 時	愛知大学	経過報告と上流地域の締めくくりなど。 県からの入金状況報告、下流域の地図コピー配布。 下流域の説明と名所旧跡のチェックなど。
5	2008. 11. 1 (土) 9 時～12 時	愛知大学	10 月 18 日・25 日実施の下流域ウォーキング状況報告。デジカメ写真やチェックポイントの整理、地図の形式の話し合い、次回から地図作成が出来るような準備。
6	2008. 11. 8 (土) 9 時～11 時 30 分	愛知大学	歩き方の検討
7	2008. 11. 8 (土) 13 時～15 時	豊橋 かわっこ	グループ別打ち合わせ
8	2008. 11. 22 (土) 9 時～12 時	新城 まちなみ	地図印刷の見積書検討、原稿提出日程相談。地図に書き込む約束事の策定など。
9	2008. 11. 25 (火)	愛知大学	下流域地図書き込み作業

	13時30分～15時		
10	2008.12.6（土） 9時～12時20分	愛知大学	印刷業者との打ち合わせ結果の報告。 方向、マップスタイル決定。
11	2008.12.13（土） 9時30分～ 12時30分	愛知大学	地図文章推敲。
12	2008.12.15（月） 13時30分～ 14時30分	愛知大学	印刷業者と打ち合わせ
13	2008.12.20（土） 9時30分～ 12時20分	愛知大学	ゲラ校正作業。
14	2008.12.27（土） 9時30分～ 15時30分	いちよう ミーティング ルーム	地図校正作業。
15	2009.1.10（土） 9時30分～ 12時30分	愛知大学	ゲラ校正作業。地図校正作業。
16	2009.1.17（土） 13時～16時30分	愛知大学	ゲラ校正作業。地図校正作業。
17	2009.1.25（日） 13時～16時30分	新城 まちなみ	最終原稿確認。
18	2009.1.31（土） 13時30分～ 17時30分	愛知大学	最終打ち合わせ。印刷物、報告書の確認。

（３）豊川リバーウォーク・マップの配布

豊川リバーウォーク・マップを 1,000 部作成し、豊川を知り、豊川沿いを歩き、身近に親しむことができるよう東三河市町村はじめ流域市民団体や図書館、学校など下表のとおり配布した。

	配布先	箇所
県関係機関	東三河県民事務所他	3
東三河市町村	豊橋市始め 5 市 3 町 1 村	9
東三河 図書館		5
高校		31
中学校		60
青年会議所	豊橋、豊川、田原、蒲郡、新城	5
流域活動団体	穂の国森づくりの会他	30
マップ掲載店舗など		30
マップ作成協力団体		7
	総合計	180

4. 事業の効果

(1) 豊川の理解を深める

豊川が身近にありながら、あまり豊川のことを知らないのが現実である。

豊川リバーウォーク・マップには豊川沿いの歩くことができる道を記載するとともに、川の流れの様子、岩や河原の様子、河畔林、河川敷公園、畑作利用、遊水池の差し込み口であるいわゆる霞堤、渡し船の跡地、今も残る渡し船、川沿いの山村風景、集落、神社仏閣、市街地、悠々とした河口の風景、そして豊川に水をそそぐ山々の風景をぎっしりと詰め込んだ。

私たち自身が豊川を生み出した地形地質、豊川流域の歴史、生物、土地利用、水利用、人々の生活・営みについて、理解を深めることができた。

このマップを見た人が豊川に関心を持ち、学習し、実際に豊川沿いを歩き、豊川を身近に感じてもらえることが期待できる。

近年、生態系の保全、適正な水循環への取り組みが行われている。豊川を身近に感じ、豊川に直接触れることで、将来にわたって豊川の水源を保全し、清らかな流れが維持され、その清らかな水の恩恵を受けるとともに、洪水の危険を上手に避けながら生活できるよう、その意識を深めることができる。

(2) 市民交流の広がり

コース1の豊川上流の設楽では、「ネットしたら」の方々と、地元の木材でつくられた、魅力のある2階建ての「コミュニティプラザしたら」で交流した。地域おこしに取り組み、地元の農作物（ブルーベリー・梅）を使った酒造りや酒かす漬けの開発や、設楽の民話「段戸のかしき」のCDの自主制作の話を伺った。

コース3の鮎滝では、^{すざわ}出沢鮎滝保存会から長き伝統である笠網漁について話を伺った。

コース4の鳥原地区では、環境保全会の方々から「農地・水・環境向上支援事業」の実践や遊休地を活用した「四季の花園」、「ビオトープ」づくりによる環境保全活動について話を伺った。

コース7の河口・前芝地区では「みなと塾」の方々から「燈明台」や江戸時代の前芝湊と山の湊（新城）との往来の歴史や、海岸の清掃活動などの話を伺った。

また、コース7の豊川かわっこは、豊川の治水、利水の状況、川魚が展示してあり、川を学ぶことができる。川に関心がある市民の交流の場としても活用できる。

以上のような私たちが行った市民団体との交流の様子を、マップの中で紹介することにより、リバーウォークを行う人と地元住民との交流の輪につながっていくことが期待できる。

5. 今後の課題と展望

共演、協同できるボランティア団体等をいかに巻き込んで、イベントを開催していくかが、人数集めを含めた成功の鍵になるのではないかと。そして、老若男女誰でも参加できるイベントとして継続できるよう企画から共同参画してもらおう。人と人とのつながり、組織のつながりからネットワークを広げ、お互いが影響し合って活力溢れる地域活動の一助となるよう提案する。また、様々な所からスタッフが集まれば人集めにも繋がるので重要なことと捉えている。

昨今、設楽ダム関連のニュースが新聞等をにぎわしており豊川の話題にはこと欠かない。ダム建設は地元ばかりでなく広く流域住民にも環境アセスメントなどで関心が集まっている。マップの中でも紹介した「1 コース」はダム建設予定地も含んでいるので、今後は通行規制等でどこが歩けなくなるかなどの注意が必要である。

現在の日本で、水や緑（森林）の資源が少ないと思っている人は少数であると思われる。しかし、一人当たりに換算するとどうであろうか。もし海外からの食物輸入がストップしたら、それらを生産するのに十分にあると言えるだろうか。特に都市部に住んで自然が身近に感じられない人たちにはぜひ豊川と一緒に歩いてもらい、河川や森林が水資源をどう守っているかに気づいてもらうこと、を課題と捉え取り組んでいきたい。

このマップを見た方たちが、一人でも多く興味を持ちリバーウォーキングに挑戦して頂き、この地域のことをもっと知る機会となれば、豊川リバーウォーク・マップを作った目的がかなえられたものと考えます。

6. 活動を通しての感想

河川の上流から河口に向かって歩いてみると、実は思っているほど川がまっすぐでないことを実感した。また、川に架かる橋が地域の交通に重要であるばかりか、景観にも大きく影響していることも体感した。上流域の川には大きな石、岩がごろごろしている。下流域の川は幅が広く、大部分が河川敷となっている。そこは公園、グラウンド等の遊び場となっているほか、河畔林など自然がそのままのところ、また畑として耕作されているなど有効的に活用されていた。河川事務所などの展示施設、また所々に河川水位観測施設があったが普段は利用者が少ないように感じた。

交流を目的に新城のまちなみ情報センターを利用した。センターまでは豊橋市の中心部から時間的にも不便を感じないが、それから先の上流域については交通アクセスが悪くなっている感じを受けた。行動計画を立てるにあたって、ポイントまでの交通手段及び到達時間をすごく気にした。都市と農山村の違いを何で感じるかは主観的なものではあるが、まずどれだけの人に会うかで大きく左右されると思った。明るいオレンジ色のベスト(ネー

ム入り)を着用し、目立つ格好で、通る人たちにアピールすることができたのは良かった。

委員会も回を重ねる毎に意見が多く出るようになって充実してきた。みんなで協議することがメンバーの意識の高揚につながっていった。マップ作成の準備として資料集めをしたとき、自然を楽しむハイキングのほかに、街中ウォーキング、街道ウォーキングなる史蹟・名勝を巡るウォーキングイベントが各地でブームとなっていることを知った。

実際のコース歩きは、短期に実施することとなったので半車半足となり、地図を片手に距離の測定、川周辺の観察を行ったが晩夏から晩秋と時期的にも良かったと感じた。山林、山の奥には入らないまでも植林されたスギ・ヒノキの現況が見られた。山と谷に挟まった上流地域を歩きながら自然を満喫できたと思えるか、自然に圧倒されたと感じたかは人それぞれで感じ方も違うのでは・・・？ 年代や性別のほかに、住んでいる地域によっても感覚（感じ方）がどう違うかなどを、ウォーキング後の感想をアンケートに記入してもらい整理するのもおもしろいと思った。

上流域と下流域がどこかで分かれているわけではない、連続した一つである。現実には川を下るようにストレートに一本の道（ルート）では繋がらなかったが、右岸左岸を比較しながら歩きやすいコースを選択することができたと思う。実体験したことで、今まで以上に川に沿って歩きたいという気持ちが強くなった。また、地名・土地等を覚えるうちに郷土というか地元に対する愛着が強くなった。皆さんにもぜひ体験していただきたい。

最後に、足で歩くことは、足の裏で何かを感じることになる。また、大地に残る足跡からはその土地への何かを感じる。その土地・場所で何かは分からないが、心のどこかに伝わってくるものを繋ぎ止めておきたいという気持ちが生まれた。